

はくつ いけがみそねいせき  
発掘 池上曽根遺跡

池上曽根史跡公園の地面の下には、弥生時代の人たちの暮らしていた跡が埋まっています。土の中に埋まっている昔の人たちの暮らしの跡を「遺跡」と呼び、遺跡を調べることを「発掘調査」といいます。



地面の中を横から見ると

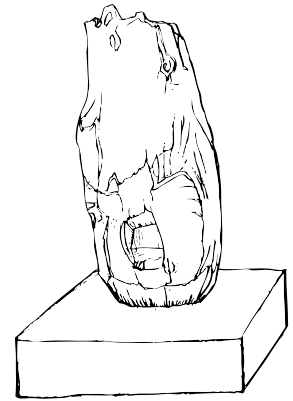
史跡公園の地面の中を、横から見ると図のようになります。横じまのように見えるのは土の種類がちがうからです。この集まりを地層といいます。自然に埋まったときは、きれいな横じまになりますが、人が埋めると井戸杵のまわりのようにまだらに見えます。

☆ 図の      の中に、展示室のまん中にある「弥生時代最大級のくり抜き井戸杵」を横から見た絵を描いて完成させよう。

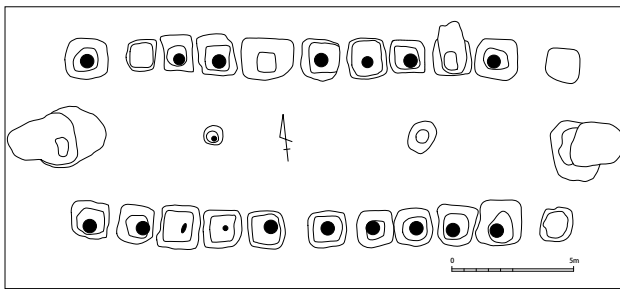
大柱は埋っていた部分が残っているだけなので、  
本来はもっと長い柱と考えられます。

ふくげん いけがみそねいせき  
復原 池上曽根遺跡

展示室の奥の「大柱」は池上曽根遺跡からみつかったもので、建物の柱と考えられています。地上にあった部分は残らずに、地面に埋まっていた部分だけが残っていました。この大柱が埋まっていたようす（図ア）と池上曽根遺跡でみつかった土器に描かれた建物の絵（図イ）から、となりの史跡公園にある「和泉の高殿」（図ウ）が復原されています。

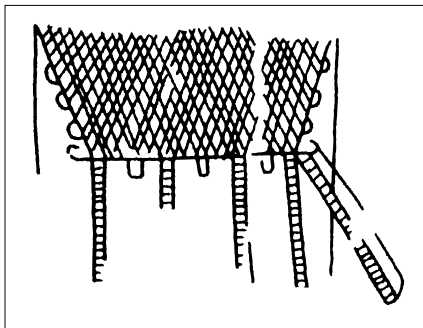


おおぼしら う  
ア. 大柱が埋まっていたようす



おおぼしら  
大柱は、空から見ると、図アのように  
ならんで地面に埋まっていたよ。図の●  
おおぼしら  
が大柱、そのまわりのゆがんだ□は大柱  
を埋めるために弥生の人たちがほったあな  
なんだ。大きな大柱が何本もならんでみ  
つかったことから、とても大きな建物が  
あったことがわかるんだよ。

どき えが  
イ. 土器に描かれた建物の絵



ふくげん  
ウ. 復原された大型建物



※ この建物は史跡公園にあるよ。

☆ それぞれの大柱には、横に穴があいているよ。この穴はどんなことに使われていたのかな。自分の考えを [ ] に書いてみよう。

奈良県田原本町唐古・鍵遺跡で、同じような穴に蔓を巻いたものが見つかっており、運搬用にひもをとおした穴と考えられます。しかし、異なる意見もあります。

※ 運搬用であるとするれば、馬も牛もいないので、人が引っぱって運んでいたと思われます。